



日時・会場

9.30 2023
SAT

12:10-13:10

第7会場

名古屋国際会議場
1号館3階 会議室131+132

骨粗鬆症診療におけるBAPを含む 骨代謝マーカーの活用について

座長

宮腰 尚久 先生

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻
機能展開医学系整形外科学講座

演者

辻 王成 先生

朝日野総合病院整形外科

ランチオンセミナーチケットは開催日当日に配布いたします。
お持ちの方から優先的にご入場いただきます。
チケットの数には限りがありますので予めご了承ください。

[配布時間] 9月30日(土) 7:30~11:50

[配布場所] 名古屋国際会議場 1号館 1F アトリウム

※定員に余裕がある場合は、チケットをお持ちでない方もご入場いただけます
※ランチオンセミナー開始と同時にチケットは無効となります

日整会単位申請について

日本整形外科学会教育研修単位の1単位が取得できます。
(受講料: 1 講演 1,000 円)

専門医資格継続単位必須分野: 4. 代謝性骨疾患 (骨粗鬆症を含む)
※名古屋国際会議場 1F アトリウムの単位受付にて受講申込書に
必要事項をご記入のうえ、受講料を添えてお申込みください。



骨粗鬆症診療におけるBAPを含む骨代謝マーカーの活用について

辻 王成 朝日野総合病院整形外科

骨粗鬆症は、骨折による患者のQOL (quality of life) 悪化に加え、高齢化社会に伴う介護や医療費増加の観点からも対策が急務な疾患の1つであり、2022年4月の診療報酬改定では、大腿骨近位部骨折患者に対する「二次性骨折予防継続管理料」が新設され、高齢者の骨折予防対策は大きく前進すると見込まれる。

骨折予防において薬物治療はその中心的役割を担う。治療薬剤選択には、既存の骨折、骨密度、年齢、性別、腎機能などに加え、動的指標の骨代謝マーカーを用いた骨代謝の把握は必須である。まずは骨粗鬆症の重症度、そして骨代謝を評価したうえで、患者が継続可能な薬剤を選択し、治療を継続することにより、目標である骨折予防を達成できると考える。

骨代謝マーカーの測定にはタイミングと回数に制限があるため、治療のモニタリングとして、当院では薬剤に関わらず、治療開始前と治療開始約3か月後に測定している。骨代謝マーカーの種類は、骨形成マーカーは骨型アルカリホスファターゼ(BAP)、トータルI型プロコラーゲン-N-プロペプチド (total P1NP)、また骨吸収マーカーは酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ-5b (TRACP-5b) である。治療開始後に薬剤の変更がなければ、年1回の骨形成マーカーの測定を行い、骨代謝を確認している。われわれのデータからも、骨代謝マーカーは、使用した薬剤の作用 (骨吸収抑制剤、骨形成促進剤) の特性を反映する変化を示すだけでなく、各薬剤の骨代謝に与える影響力をも明確に示すため、その結果を薬剤選択に活かすことが可能となる。しかし、二次骨折予防対策として薬物治療を開始した場合、骨折の治癒機転による骨代謝の亢進により、骨吸収抑制剤を使用しても、骨代謝マーカーが約3か月後の検査で最小有意変化 (minimum significant change:MSC) を満たさず、評価が困難なケースも見られる。

先の診療報酬改定に伴い、多くの施設で骨粗鬆症リエゾンサービスのチームの立ち上げが進んでいるが、医師だけでなく各医療スタッフが骨粗鬆症診療の全体像を理解することはチーム医療推進のカギとなる。一見わかりにくい骨代謝マーカーを理解することで、薬剤の効果や薬剤選択を自身で考えることが可能となれば、患者の包括的サポートはさらに向上する。

本講演では、実臨床で得られたデータから、症例提示を含め、骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの特徴、注意点、有用性などに触れたい。